

単元名・目指す言語能力

新たに知った言葉を紹介する  
～聞き手を意識して話す～

どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが分かるようにする。

〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕「学びに向かう力、人間性等」の3点を明記

第1学年

〔知識及び技能〕(1)ウ

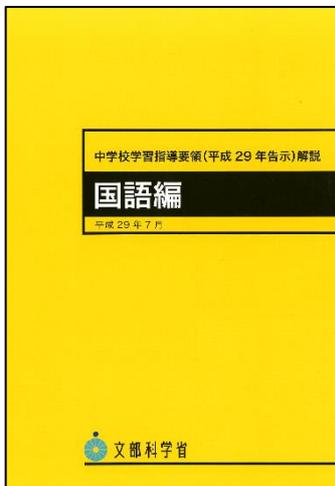
〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)ア・ウ  
言語活動例 A(2)ア

文末を、「～できる。」として示す。

1 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1)オ
- (2) 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 [思考力、判断力、表現力等] A (1)ア
- (3) 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] A (1)ウ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

「学びに向かう力、人間性等」は、**当該学年の目標**である「言葉がもつ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。



※『学習指導要領解説国語編』を読み、指導事項を確認する。  
冊子版もありますが、文部科学省HPからダウンロードすることもできます。

2 教材名

○○○○○○○○ (教科書名 学年)

3 生徒の実態

- ・ 目指す言語能力に関するレディネス
- ・ 過去の学習の達成状況
- ・ 全国学力・学習状況調査、県学力把握調査等の結果
- ・ 日常の取組 (N I E, 読書, 学校図書館の活用等)

国語の指導事項に関わる実態、  
学習履歴、日常の取組等

4 指導の内容と言語活動，教材のかかわり

(1) 言語活動設定の意図

- ・言語活動を通して資質・能力を育むための手立て

【5つの言語意識】

- 目的意識 …… ために
- 相手意識 …… に対して
- 場面状況意識 …… 場面で
- 方法意識 …… を通して
- 評価意識 …… ことができた

(2) 教材の特徴

- ・教材分析を踏まえて，本単元の指導事項を身に付けさせるために関係する内容

5 単元の評価規準

指導する一領域を、「(領域名)において、」と明記

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事象や行為，心情を表す語句の量を増すとともに，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)オ)	①「話すこと・聞くこと」において，目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ②「話すこと・聞くこと」において，相手の反応を踏まえながら，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	①粘り強く表現を工夫し，学習の見通しをもって新たに <u>知った言葉を紹介しようとしている。</u> 文末を、「～しようとしている。」とする。

文末を、「～している。」とする。

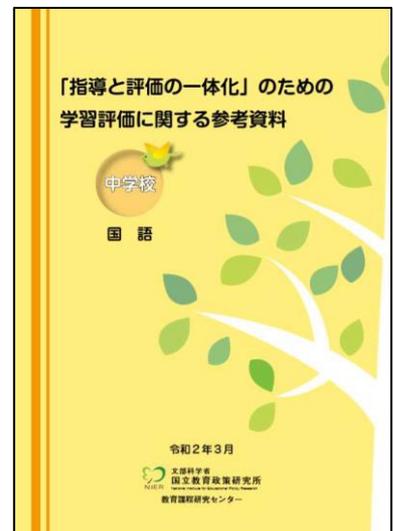
文末を、「～している。」とする。

\*本単元では，〔思考力，判断力，表現力等〕A(1)ウを特に重点的に指導し評価する。

当該単元で，特に重点化する指導事項を設定する。

- 粘り強さ〈積極的に，進んで，粘り強く等〉
- 自らの学習の調整〈学習の見通しをもって，学習課題に沿って，今までの学習を生かして等〉
- 他の2観点において重点とする内容（特に，粘り強さを発揮してほしい内容）
- 当該単元（や題材）の具体的な言語活動（自らの学習調整が必要となる具体的な言語活動）

※作成に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照してください。冊子版もありますが，国立教育政策研究所からダウンロードすることもできます。



6 指導と評価の計画 (A「話すこと・聞くこと」○○時間中の5時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<p>○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>○「語彙手帳」(あるいは書籍、教科書など)から、新たに知った言葉を紹介するという目的を踏まえて、候補とする言葉を選んだ理由・意味・用例・出合い・エピソードなどを整理しながら、友達に紹介する言葉を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに知った言葉を紹介するスピーチを2分程度で行うことを知らせる。各自で学習の進め方を考えることができるように、教師がスピーチのモデルを示す。</li> <li>・言葉を選ぶ際には、今回のスピーチの目的や場面、相手などにふさわしい言葉を考えさせる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、紹介する言葉を決め、目的や場面、相手などを考えて、その言葉に関するエピソードなどの話す材料を整理しながらスピーチの内容を検討しているかを確認する。</li> </ul>
2 ・ 3	<p>○話し方の工夫について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に意識させたい「相手の反応を踏まえながら」表現を工夫するといった内容をスピーチで発揮できるように小学校から学習してきた話し方の工夫について想起させ、相手の反応を踏まえて話すにはどのようなことに気を付ければよいかを生徒自身に確認させる。</li> </ul>	<p>「単元の評価規準」について、評価する場面と評価方法を示す。また、実際の学習活動を踏まえて「Bと判断する状況」を具体的に想定して示す。</p>
	<p>話合いの中で話題となると予想される話し方の工夫</p> <p>◎相手の反応を踏まえる(繰り返す、問いかける、話題を変える、説明の仕方や言葉を変える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声量や声色 ・間の取り方 ・表情や身振り ・話の構成</li> <li>・相手の興味や関心をひく話題の選択 ・効果的な表現 など</li> </ul>		
	<p>○選んだ言葉が相手に分かりやすく伝わるように、どのような話の構成でスピーチをするかを考え、ノートにメモする。</p> <p>○話す内容が決まったら別室に移動し、スピーチの練習を行う。</p> <p>○相手の立場に立って確認したり、友達にアドバイスを求めたりしながら、必要に応じてノートの内容を赤字で修正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートには、話の構成や要点、話し方の工夫などを記入さえ、読み上げるための原稿にならないように指導する。</li> <li>・別室には、タブレット端末数台と固定スタンドを用意し、生徒が自分のスピーチの様子を撮影し、自分自身でその様子を確認できるようにしておく。(別室が用意できない場合は、教室の一角を練習コーナーにする。)</li> <li>・動画は、自分の確認だけでなく、友達に見せてアドバイスをもらう場合にも有効であることを伝え、効果的に活用させる。</li> </ul>	<p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしているかを確認する。</li> </ul>
4 ・ 5	<p>○スピーチの発表会を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに、A3程度のホワイトボード等を用意し、話し手が自由に使用できるようにしておく(必要に応じて紹介する言葉を書いたり、友達に書いてもらったりするなど、様々な使い方が考えられる)。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現②] 発表・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて問いかけたり、発言を繰り返したり、説明の仕方を変えたりしているかを確認する。</li> </ul>

